

第 26 回「整形・災害外科 優秀論文賞」のお知らせ

本誌編集委員会では、昨年一年間の本誌に掲載された投稿論文（論究・臨床・手術・経験・症例欄等掲載論文）を対象に優秀論文の選考を行ってまいりましたが、この度、下記の論文が小誌における 2021 年（整形・災害外科 第 64 巻）の優秀論文に決定いたしました。

**Balloon kyphoplasty (BKP) 術後に生じた PMMA 塊圧痕による
上位隣接椎体骨折（クレーター骨折）の検討**

岡本春平ほか（厚生連高岡病院，整形外科）

〔整・災外 64：357—363，2021〕（3 号）

大腿骨頸部骨折術後の遅発性骨頭圧潰

越智龍弥ほか（くまもと県北病院，整形外科）

〔整・災外 64：1023—1028，2021〕（8 号）

足関節外側靱帯における 3D MRI シーケンスの比較

赤塚吉紘ほか（札幌医科大学附属病院，放射線部）

〔整・災外 64：1705—1709，2021〕（13 号）

選 者 評

本誌第 64 巻（2021 年）に掲載された投稿論文から、本誌編集主幹 5 名の投票により、優秀論文として上記の 3 編が選ばれました。

岡本春平氏の論文は骨粗鬆症性椎体骨折に対する balloon kyphoplasty 後に PMMA 塊によって生じた隣接椎体骨折（クレーター骨折）の頻度や発生要因を、非クレーター骨折と比較検討したもので、クレーター骨折では骨折の粉碎度や PMMA 塊の形状が関与することを明らかにしました。

越智龍弥氏の論文は、過去 36 年間に内固定した大腿骨頸部骨折患者において、遅発性骨頭圧潰の発生率や発生時期を調査し、長期観察結果では発生が予想以上に高率であることを明らかにしたものです。

赤塚吉紘氏の論文は足関節外側靱帯損傷において、三次元 MRI の撮影条件を検討し、靱帯の評価には 3D balanced FFE よりも 3D VISTA の方が有用であることを明らかにしたものです。

いずれの論文もきわめて新規性が高く、優秀論文にふさわしいものと高い評価を受けました。皆様おめでとうございます。

受賞のことば

この度は「第26回 整形・災害外科 優秀論文賞」に選出していただきまして、大変光栄に存じます。思い起こせば2011年より、当院でもBKPが施行開始となりました。この手術に非常に興味を持った私は、1例1例を詳細に検討してデータ化する仕事に没頭しました。そしてあるとき、隕石が惑星に穴をあけたような特殊な隣接椎体骨折があることに気づきました。その後、約200人以上のX線写真を毎日眺めているうちに、この特殊な隣接椎体骨折（クレーター骨折）が起こるメカニズムが2つ見えてきました。それらをまとめ、合併症予防法への糸口を提案したものが、本論文です。データを集積するのには、非常に時間と労力が必要でしたが、自分の仮説をデータで証明することができ、さらに優秀論文賞までいただきまして感激です。この受賞を糧に、さらに隣接椎体骨折の原因や予防・治療について検討を重ねて、ますます臨床研究に励みたいと思います。

岡本春平（厚生連高岡病院、整形外科）



この度は「第26回 整形・災害外科 優秀論文賞」に選出していただき、大変光栄に存じます。私には整形外科医として初めての受賞となります。私はこれまで大腿骨頸部骨折を中心に学会発表・論文作成を行ってまいりました。やや骨癒合しにくいことや、骨頭栄養血管の損傷の問題などに興味を惹かれてきました。未だ解明されていない問題が数多く存在し、良い指導者にも恵まれて同一病院で長期にわたり研究課題とすることができました。受賞論文はその集大成といえるものです。私は1996年から「公立玉名中央病院」に約25年間勤務させていただき、2021年3月1日に2病院の経営統合により402床の新築病院として「くまもと県北病院」に名称が変更になりました。私自身は結構いい年齢になり、いつまで仕事を続けられるかわかりませんが、今後も大腿骨頸部骨折に関する未解決な問題を1つでも研究できればと考えています。

越智龍弥（くまもと県北病院、整形外科）



この度は、「第26回 整形・災害外科 優秀論文賞」に選出していただき、大変光栄に存じます。われわれは、以前から足関節外側靱帯の評価を行うために3D MRI（撮像後に任意の断面を作成することが可能な撮像法）を用いてきました。MRI装置の技術的進歩に伴い、さらなる画質の向上が期待され、足関節外側靱帯を詳細に評価するための撮像条件を検討しました。当院では、陳旧例における遺残靱帯の評価などに本研究で得られた条件を用いてMRIの撮像を行っています。本研究が皆様の施設におかれましても、参考にしていただける内容となっていれば幸いです。今後も、整形外科学分野における画像診断の発展に少しでも貢献できるような研究を続けて参りたいと存じます。最後に、本研究を行う上でご指導・ご支援いただきました山下敏彦先生はじめ教室の先生方、そして、論文作成のご指導いただきました寺本篤史先生にこの場をお借りして心より深謝いたします。

赤塚吉紘（札幌医科大学附属病院、放射線部）



優秀論文の筆頭執筆者には、賞状ならびに副賞として金一封・記念品を贈呈いたします。

本誌編集委員会では今後も継続的に各年毎の掲載投稿論文を対象に「整形・災害外科 優秀論文賞」の選考を行ってまいります。読者皆様の活発な研究発表の場として、小誌を存分にご活用ください。

（整形・災害外科 編集室）